

しまん

平成 28 年 10 月 27 日
京都市立第四錦林小学校
校長 綿越 貴久
特別号 NO. 9

—グローバル化時代に よりよく生きるために、自ら考え行動する子を育てる—

平成28年度 前期 学校評価 まとめ

◎「学校教育目標」を実現するための三つの取組の柱を視点として子ども・保護者・教職員が評価しやすい設問にしています。学校で教職員が取り組んでいることが子どもにどのように届いているのか、また子どもが自分の頑張りをどのように捉えているのか、家庭では学校での取組がどれくらい生かされているのかということを中心に尋ねています。

◎各コメントの項目は、「子どものふりかえり」の質問項目を中心に書いています。

勉強する子

① チャイムを授業の場所で聞いている

3年前より取り組んでいるため、ほとんどの子どもは、よくできていると答えています。子どもたちの様子を見てみると、ほとんどの子どもが予鈴の音楽（『シング』）が聞こえると校舎に入ると意識を持っています。ただ、教室には入っているのですが、その後すぐに授業の準備をしているということについては、まだ課題があります。チャイムとともに授業を始めることは、45分の授業時間を確保し、子どもたちの学習を保障していくこと上で最も大切なことです。そのためにも、教師が教室で、チャイムとともに授業を始められるようにしていかなければなりません。子どももその意識を持てるように取り組んでいきます。

⑤ 授業中のルールを守っている

授業のルールを守るということは基礎的なことではありますが、大変重要なことです。子どもたちの9割以上が「よくできている」「大体できている」と回答しています。4月の学年の初めから教室に大切ないくつかを掲示し、指導してきました。授業中のルールを守るとは、子どもの意識を高めることで達成できることだと思います。それは、教師が毎時間意識することにより子どもにも伝わるものです。子どもたちの様子をしっかりと把握し、意識して後期は取り組んでいきたいと考えます。

② めあてをはっきり持って学習している

めあてをしっかりと持たせるために、授業の初めには「めあて」や「学習問題」を明らかにし、授業を進めています。その取組の成果が定着してきたのか、「よくできている」の比率が高くなっています。後期は、1時間1時間の授業において「めあて」にもとづいて、その目的に応じて授業改善を進め、子どもたちが最後にしっかりとした「まとめ」ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

④ 授業中のグループの話し合いでは、たくさん発言している。

⑧ 授業中、友だちや先生の話もしっかり聞いている。授業中、自分の思いや考えをしっかり話している。

今年度、本校の目指す子ども像は「すすんで聞き、すすんで話す子」としています。その中で2割弱の子どもは「あまりできていない」「できていないという」回答をしています。自分の意見を述べることは、学習中はもちろん、普段の生活においても友達関係を築くことなどにも大切です。最後までしっかりと聞くなどの態度、聞こえる声で話すなどの態度に加えて、「内容を理解する」「話したい思い、考えをもつ」という力を付けることも大切です。このことを授業や日常生活でも子どもたちにさらにしっかりと意識させ、これからもしっかりとこの力を付けていきたいと考えています。

⑤ 宿題や家庭学習などをすすんでしている

家庭学習について子どもは、6割強がよくできていると答えています。ところが保護者の回答は、よくできているが3割ほどになっており、回答に差がみられます。すすんでできているか、言われてしているか、この差は大きいと思います。「自ら調べたり、自ら学習したりする」いわゆる「自学自習の態度」をしっかり身に付けることが力の差にもなってきます。この態度を身に付けるために、学校での学習はもちろんですが、宿題や家庭学習を子どもにいか意識づけていくかも大切になってきます。「宿題や家庭学習の定着」は小さい頃から身に付けさせていくことが大切です。そのためにも、ご家庭でもお子さんと一緒に約束を決めるなどされていると思います。学校でも家庭での学習時間（めやすとして10～15分×学年）を示し、漢字・計算・音読などの既習のもの、また、読書・自主学習など自分でできることを家庭学習として設定しています。子どもたちにどの時間帯に何をどのように行うか自分で決めて、取り組ませるようにしています。ご家庭でも引き続きご協力よろしくお願い致します。



⑥ 朝学習では10分間しっかり読書に取り組んでいる

子どもの回答では「朝学習でしっかり読書に取り組んでいる」が9割をしめました。しかし、家庭ではあまり読書ができていない子どもが依然として多いようです。下校時刻や習い事等の関係で時間がとりにくい状況があるかと思いますが、小さいうちから、ぜひ、読書をする時間を見つけてほしいと思います。学校でも「朝読書」「めざせ読書100冊」の取組や「読書週間」を設定しています。少しの時間があれば読書をするというような子どもを育てていきたいと思っています。



つながるやさしい子

① 相手の気持ちを考え行動している

多くの児童が「よくできている」「大体できている」と回答しています。教職員・保護者も「できている」はやや少ないですが、「大体できている」が多くを占めています。しかし、1割弱の子どもが「あまりできていない」「できていない」と回答していることも気になります。子どもたちの様子を見てると大きなけんかやもめごとはあまりないのですが、相手の気持ちを考えることに「無関心な子」「何気ない一言や言動をしている子」がいないか、気を付けたいと思います。そのことに気付かないでいると大きな問題になることもあります。学校としても気になる言動や行動があれば、早期に対応し解決に努めています。ご家庭の話の中で気になることが出てきたときは、学校までお知らせください。これからも子どもたちの「何気ない一言や行動」にさらに気を付けながら、良さを伸ばしていきたいです。

⑤先生は、自分の思いをわかってくれる

「先生は思いをわかってきている」と答えている子どもの数が以前と比べ少し低くなっています。気になる場所です。学習を含め、子どもたちの学校生活をよりよくするためには、お互いの信頼関係を築くことは不可欠です。子どもたちは学年が上がるにつれて、素直に自分の気持ちを話せないこともあると思いますが、たゆまず今後も子どもたちとよりコミュニケーションを深め、思いをくみとっていききたいと思っています。



⑤ いつでも自分から声を出して笑顔であいさつをかわしている。

保護者のアンケートでは、「家族で」あいさつを交わしているという項目とし、良い結果が得られています。一方、子どもたちのアンケートは、「家族で」という限定した問いかけはしていません。そのためか、「あまりできていない」「できていない」と1割の子が回答しています。自分ではできていると思っても、声が出ていない場合も多々あります。また、相手をしっかりと意識してかわしているかと言えばまだ十分ではありません。あいさつは、心を開き、互いに仲間として認め、信頼関係を築いてく大切な第一歩

です。それらの事を大切にして挨拶をかわしてほしいと思います。そのためにまず大人からしっかり子どもたちにあいさつをかわしていきたいです。

⑧ 学校生活のルールを守っている。

子どもたちの多くは「よくできている」「大体できている」と回答しています。ただ前年度に比べ、子どもの「あまりできていない」「できていない」の比率が上がっています。保護者も家庭の約束をあまり守れていないと回答しています。「ボール遊びのルールが守れていない」「廊下を走っている」「トイレのスリッパが揃えられない」など学校でも気になることはあります。子どもたちの生活の乱れは、こういった日々の細かいことから始まっていきます。学校内外でのルールを守るために、自らが考え行動できるよう、さらに教職員が目を配り、温度差なく指導していきます。

元気な子

② 学習中姿勢を正している。

子ども・保護者ともに「よくできている」の比率が低い項目になりました。日頃から姿勢を正しくするよう授業中に取り組んでいるのですが、なかなか正しい姿勢が保てられないという現状が続いています。姿勢が悪いと内臓にも負担がかかり、背骨もまがり健康にも多くの害を及ぼします。集中力の低下や視力の低下も心配されます。小さい間に姿勢を直しておかないと骨格が歪んだまま筋肉がつき、また姿勢が歪んでしまうという悪循環にもなります。小さいうちから自然に背筋がピンと伸びて学習できるよう、学校でも家庭でも意識して取り組んでいきたいものです。

④早寝・早起きをしている

四錦校では「7時までに起きる」ことを全校で取り組んでいます。脳がしっかり働くのは、起床後2時間かかると言われています。子どもたちが1時間目から意欲を持って学習するには、やはり「7時の起床」は譲れないところです。また、睡眠が不十分であると、成長ホルモンなどの分泌に影響をあたえ、脳や体の成長に悪影響を及ぼします。これから寒くなるにつれ、朝も起きにくくなります。ご家庭の協力も得ながら、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

○今回の調査でも、引き続き多くの項目で子どもたちの意識は高いものとなっています。その子どもたちの気持ちを大切にしながら今後、取組をさらに進めていきたいと思っています。

「学校評価」へのご協力ありがとうございました。

「前期 学校評価の考察」は第四錦林小学校ホームページにも掲載しています。